

## 小学校級友の特攻出撃



山下 二男  
予科6-9  
航空16-3  
(所沢市)

平成8年1月16日に開催された宮崎県南郷小学校の同窓会に出席した際、図らずも級友杉本徳義君が昭和20年4月3日に沖縄方面に神風特別攻撃隊として零戦で出撃し、散華されたことを知り、爾来、戦記物を見聞する度に杉本君を思い出し、関連資料の収集に努めてきた。

以下に杉本徳義君の特攻隊出撃記録の発見および修武台記念館で杉本君の名前の記載された出撃者名簿を発見した経緯等について紹介したい。

### 神雷部隊出撃記録発見に至る経緯

平成8年1月16日、宮崎県南郷町所在の南郷小学校昭和14・16年卒業生の第2回同窓会が開催された(発起人代表酒井義明君:旧海軍兵学校76期生)。その際入手した南郷小100周年記念事業(昭和13度卒業生名簿H5.3.31)にて、杉本君の〔南西諸島で戦死、海軍少尉S20.4.3〕の記録を発見、そして出撃に先だち零戦にて目井津上空を旋回し、両親家族や郷土に訣別して

特攻出撃したとの話を聞き60年前の当時の小生自身の心情と思ひ合せ言い知れぬ感動を覚えた。

なお、平成12年4月2日「産経新聞」の毎週日曜日掲載の「あの戦争」(編集委員牧野弘道氏記)の鎮魂欄にも〔4月3日・神雷部隊第2建武隊西伊和男中尉らの零戦6機が奄美大島南方へ突入散華〕と記載されている。

### 修武台記念館で神風特別攻撃隊の出撃名簿にその名を発見

平成12年4月6日、埼玉60と東京60城北ブロックとの共催による観桜会が、航空自隊入間基地(旧航空士官学校:修武台)及び隣接の稲荷山公園にて開催されたが、その際、修武台記念館を見学した。館内には、第二次大戦末期に開発使用された特攻機の「桜花」(実物)の展示室があり、神風特別攻撃隊の出撃者名簿(金属製の銘板)も展示されていた。この出者名簿の中に「杉本徳義」君の名前を発見した。

その名簿には部隊名、階級氏名および出撃日が次のように記載されていた。

神風特別攻撃隊: 神雷部隊(S.20.4.3)

第2建武隊

海軍中尉	西 伊和男 (三重)
一等飛行兵曹	篠崎 實 (東京)
一等飛行兵曹	木村 元一 (愛知)
一等飛行兵曹	杉本 徳義 (宮崎)
二等飛行兵曹	井口 出 (福岡)
二等飛行兵曹	村田 玉男 (福岡)

なお、階級は出撃時のもので戦死によって杉本君は海軍少尉に特別昇進している。さらに、建武隊は第1建武隊から第11建

武隊まであり、その出撃日は次の通りである。

- 第1建武隊(S.20. 4. 3)
- 第2建武隊(S.20. 4. 3)
- 第3建武隊(S.20. 4. 6)
- 第4建武隊(S.20. 4. 7)
- 第5建武隊(S.20. 4. 11)
- 第6建武隊(S.20. 4. 14)
- 第7建武隊(S.20. 4. 16)
- 第8建武隊(S.20. 4. 16)
- 第9建武隊(S.20. 4. 29)
- 第10建武隊(S.20. 5. 11)
- 第11建武隊(S.20. 5. 14)

#### 鹿屋基地からの出撃

杉本君が特攻出撃した当時の鹿屋基地の出撃状況を鹿屋航空基地資料館の展示資料を基にしてさらに詳しく紹介したい。

昭和20年4月3日15:00、戦爆22機で出撃して、そのうち上記西中尉隊の機が未帰還となり、「奄美大島南方に戦死」と布告(布告 No.99)されている。なお、同日沖縄方面に対する特攻出撃状況は次のとおりであった。

- ①第3御盾隊第601部隊の彗星17機が、第1国分から15:00に出撃して、内4機が未帰還になった。
- ②第3御盾隊第252部隊の彗星3機が第1国分から15:35に出撃して、内2が未帰還になった。
- ③第3御盾隊第252部隊の戦爆4機が鹿屋から15:35に、また、同時刻戦爆2機が第1国分から出撃して、内2機が未還になった。
- ④第3銀河隊の銀河8機が宮崎から15:23~15:31に出撃して、内3機が未還

となった。

- ⑤忠誠隊の彗星4機が新竹(台湾)から15:05に出撃し、内1機が未帰還となった。
- ⑥その他、第3大義隊の戦爆3機が、新竹(台湾)、台南(台湾)、石垣島から、また銀河2機が台南(台湾)からそれぞれ出撃して、内3機が未帰還となった。

上記のように昭和20年4月3日に実に65機の特攻機が九州、台湾の各地から沖縄方の米軍機動部隊に対して出撃し内21機が未帰還となっている。

#### 海軍飛行予科練習生の戦死状況

次に、いわゆる予科練の戦死状況を霞ヶ浦航空隊資料館の展示資料を基にして紹介したい。

杉本君は昭和16年3月、南郷小・高等科を卒業すると直ちに予科練を志願して同年12月1日、乙飛第17期生として入隊した。なお、同期生1589名のうち戦死が547名(45%)になっている。

第二次大戦開戦前後に、甲飛・乙飛に志願して入隊された方の、戦死状況は次表のとおりある。

期別	入隊日	人員数	戦死	率(%)
乙16	16.5.1	1237	837	67
乙17	16.12.1	1589	547	45
甲8	16.4.1	455	333	73
甲9	16.10.1	841	630	75
甲10	17.4.1	1097	777	71
甲11	17.10.1	1191	733	61

#### 所懐

上記南郷小学校昭和13年度卒業生名簿

によれば、総員 145 名中男子は 80 名であり、そのうち、戦死者は陸軍 1 名、海軍 2 名、海軍軍属 4 名計 7 名となっている。何れも昭和 19・20 年に、南方海上または比島方面で戦死された模様である。

戦死された諸君は、徴兵検査を待たずして陸海軍に志願し、又は軍属となって国のため、郷土のため、勇戦敢闘され、散華されたのである。従って、その戦歴は可能な限り、未来永劫まで語り伝えられることを望んでやまない。

今日、杉本君の記録が旧陸軍航空士官学校跡の修武台記念館にも展示されていることを知りその感動を抑え難く、その後、海軍航空のメッカである霞ヶ浦航空資料館を平成 12 年 11 月 6 日に、また同年 12 月 11 日に鹿屋航空基地資料館それぞれ見学し、その概略を記録した次第である。

なお、鹿屋航空基地資料館では、61 年振りに杉本君の遺影に接して、思わず眼がしらが熱くなったことを、今でも忘れられない。(平成 12 年 12 月 23 日記)

(補足) 南郷小の同級生男子 80 名のうち陸士・海兵にすすんだ者は、陸経 9 期河野重男君(元お茶の水女子大学長)、海兵 76 期酒井義明君(前出)、陸士 60 期松下義君(小生と同中隊⑥一八と小生の 4 名であった。